

# 平成21年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立峰山幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に活動し、健康な心と体で生きる力をもった幼児の育成を目指す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自然体験を中心とし、異年齢交流や体験活動が活発にでき、保護者の理解信頼、保護者間の交流も強まり親と子の育ちの場としての幼稚園であった。</li> <li>主体的な戸外活動や運動活動の活発化に向けての環境構成の工夫</li> <li>挨拶運動の更なる推進と言葉によるコミュニケーション能力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸外活動、運動活動の充実による基礎体力の向上と望ましい基本的生活習慣サイクルを構築する。</li> <li>挨拶運動の徹底と、言葉によるコミュニケーション能力の向上を推進する。</li> <li>環境教育の推進、異年齢教育の推進で、優しさ・思いやりの心を育てる。</li> <li>子育て支援活動を実施する。</li> </ul>
評価項目	重点項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然体験の充実推進 〈泥んこ太陽は友達〉</li> <li>・自然体験の構築で、豊かな感性と知的好奇心の醸成とたくましい体作りを目指す。</li> <li>・戸外遊びや運動遊びを充実させ、運動能力や体力を向上させる。</li> <li>・主体的で伸び伸びと遊ぶ力を育て、遊びを学びにつなげる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>米や野菜の栽培を行い、食育を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・米作り(泥んこ遊び、田植え、草取り、かかし作り、稲刈り、脱穀、餅つき等)</li> <li>・野菜作り(種まき、親子で定植、収穫、クッキング)</li> <li>・花作り(峰山高校園芸科生徒の指導で種まき、移植、公共施設へのプランターの貸し出し)</li> </ul> </li> <li>園外活動「森の幼稚園」を積極的に行い、豊かな感性と体力、持久力を養う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・週に1回の園外保育</li> <li>・その季節ならではの場所を選定した自然体験を設定</li> <li>・保護者に自然体験の機会を提供(親子遠足、親子森の幼稚園)</li> </ul> </li> <li>園庭、山の運動場での遊びを奨励し、運動能力の向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外遊び、運動遊びの奨励</li> <li>・薄着や裸足の奨励</li> <li>・主体的に遊びが発展する魅力ある環境の工夫</li> </ul> </li> <li>基本的生活習慣の確立を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を使った遊びを行い、望ましい生活サイクルの確立</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○野菜栽培は、成長の感動を保護者と共有できた。収穫野菜のクッキング体験等で、食に対する関心が向上し、偏食解消にも役立った。</li> <li>○「森の幼稚園」は、好奇心や探究心、長時間歩行持久力も向上した。</li> <li>○直接体験や自然体験を通して、疑問を持ったり試したりすることで知的好奇心の芽生えが、主体的に環境に関わりを持つことで遊びに広がりが見られるようになった。</li> <li>○運動遊びの取組を活発に進めたことで、多くの幼児に、土踏まずの形成が見られた。</li> <li>△戸外活動で幼稚園教育の目指す方向や、成果について保護者に具体的に知らせ、更に理解を求める。</li> </ul>

	<p>○環境教育の芽生えの心の育成          &lt;地球はみんなの宝物&gt;          ・もの・ひと・生き物・自然          とのかかわりを通し、思い          やりの心を育てる。</p>	<p>(1) 飼育栽培活動を充実させ命の大切さについて学ばせる。          (2) 異年齢交流保育を推進し、他者を思いやる心を育てる。          (3) 豊かな体験活動を展開し、物を大切にすることを育てる。          ・浄水場、クリーンセンター見学          ・アルミ缶、エコキャップの収集          ・「(親子)クリーンデー (通園路ゴミ拾い)」の実施          ・「グリーンカーテン(ゴーヤ栽培)」</p>	<p>○合鴨の孵化や種からの栽培活動を通し、命の大切さを学んだ。          ○様々な体験の積み重ねが物を大切にすることにつながり、環境意識として定着してきている。          ○異年齢交流を活発に行ったことで、いたわりや憧れ、尊敬する気持ちが育ってきた。</p>
	<p>○言語力向上のとりくみ推進          &lt;言葉で握手・育てよう言葉の力&gt;          ・話をしっかりと聞き、自分の思いを言葉で表現する力を身につける。</p>	<p>(1) 挨拶の奨励を家庭と連携して行う。          (2) 言葉で表現したくなるような体験の場を構築し、言葉を引き出す。          (3) 自分の経験したことや考えたことを話し伝え合う喜びを味わう機会を設定する。          (4) 絵本や物語に親しむ活動を多く設定する。</p>	<p>○毎月合言葉を決めて挨拶を意識づけたことで、全児に挨拶の習慣が身に付きつつある。思いを言葉で表現することでも成果が見られた。          ○目と目を合わせることを意識させたことにより、話を聞く態度の向上につながった。          ○異年齢交流を活発に行ったことにより、互いに刺激しあい、主体的に活動する姿が多く見られた。          △家庭での挨拶奨励やノーテレビデーなど、更に取り組みを発展させる。</p>
<p>子育て支援</p>	<p>○幼稚園開放の実施          ○家庭の教育力の向上          &lt;親も子も育ちあう幼稚園&gt;          子育ての基地として、保護者地域から愛され、信頼される幼稚園を目指す。</p>	<p>(1) 未就園児対象の幼稚園開放日を実施する。(月1回程度)          (2) 親子での体験活動を設定する。          ・米や野菜の栽培          ・親子園外保育          (3) 子育てについての情報提供、相談活動を行う。          ・毎月1回、「園長とお喋り会」の実施          (4) 保護者同士の交流の場を設定する。          ・PTA「ママのおしゃべり会」の援助          ・PTAと共催行事の実施          (5) 子育て講演会を行う。</p>	<p>○幼稚園開放を実施し、園児との交流ができた。またPTAの「ママのおしゃべり会」への参加呼びかけで、未就園児保護者と幼稚園保護者の交流も実現した。          ○親子での体験活動の場を提供し、親子の絆作りや家庭の教育力向上につながった。          ○毎月1回「園長とお喋り会」を実施し、保育の意見交流や子育て相談の場となった。          ○保護者参加の行事等で交流の機会を設けたことにより、保護者間の絆が強まった。          △幼稚園教育理解を進める為にも、充実した幼稚園開放の在り方を模索していきたい。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>・教育目標や指導の重点の取り組みの様子や成果等を、詳細に保護者に伝える。(特に5歳児保護者に)          ・更に言葉でのコミュニケーション力の向上について取り組みを進める。          ・子育ての基地として信頼される幼稚園を目指し、保護者、地域との更なる連携、幼稚園開放の充実をめざす。</p>		

# 平成21年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立網野幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児自らが環境に意欲的にかかわり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。</li> <li>・自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。</li> <li>・幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、課題に応じて基本的生活習慣や態度を育てる。</li> <li>・常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。</li> <li>・地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉の理解力や語彙数が気になる子が多かったが、絵本の読み聞かせの繰り返しや活動の中で話し合いを重ねていくことで、自分の言葉で思いを伝えることができるようになった。</li> <li>○キッズサッカーの指導を受け、動くことが楽しいと感じるようになり、通常の活動となってきた。風邪やインフルエンザで欠席する子どもも少なかった。</li> <li>○幼児の生活環境を把握し懇談会により理解してもらうとともに指導を重ね、家庭と協力して改善を図ることができた。△体を動かして遊ぶことは楽しめたが与えられている状況から脱皮することはできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 信頼を基盤に活力ある園作りに努める。</li> <li>(2) 新教育要領に基づく指導方針を見直し、遊びを通じた総合的な指導と、多様な体験を基本に幼児の豊かな人間性の育成に努める。</li> <li>(3) 基礎基本の力をしっかり身につけることを重点におき、「どきどきわくわくきらっ〜一人一人がかがやいて〜」をテーマに深化を図るとともに教師の専門性の向上を目指した研修を充実する。</li> <li>(4) 家庭との効果的な連携に努める。</li> </ul>
評価項目	重点項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	(1) 信頼を基盤に活力ある園作りに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な機会を設け、教育目標や課題及び改善を保護者に説明する。</li> <li>①幼稚園の教育グランドデザインの小冊子を配布する。</li> <li>②1学期の子どもの姿を映像化し、具体的な教育の姿を知らせる。</li> <li>③個人懇談会、個別の家庭への訪問や電話相談などきめ細かに子育てについての相談、指導に当たる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的な子供の姿を見せ、教育方針を知らせることで、理解を深めることができ、園や職員・活動に対して信頼や協力を得られた。</li> <li>○細かく関わることで保護者の意識を変え、幼児自身の変化へと繋がった。</li> </ul>
	(2) 遊びを通じた総合的な指導と多様な体験を基本に幼児の豊かな人間性の育成に努める。 ・体を使って遊ぶことが楽しいと感じられ、自らが主体的に遊びに関わろうとするようになる。 ・絵本やお話に触れ、「聴く」ことに慣れると	<ul style="list-style-type: none"> <li>①キッズサッカーの指導を受ける。(年10回) 自主的に楽しめるようにする。</li> <li>②毎朝、マラソンや体操をする。</li> <li>③外で体育遊びのコーナー・時間を設定し、体育遊びができるようにする。冬は遊戯室に設定。</li> <li>④さくらさくらんぼのリズム運動を行い、体の隅々まで意識して動かす。</li> <li>⑤担任、園長や保護者・図書館の読み聞かせボランティア等、様々な人に絵本を読んでもらう経験を積み重ねる。</li> <li>⑥日々の遊びや役割等の話し合い、お休み調べなどでみんなの中で話す経験をしたり、生活の中で必要な言葉のやり取りの指導等を繰り返す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間や空間、遊びの種類を提供し、徹底して戸外遊びを入れた。時間を費やすことで、確かな活動へと繋がった。</li> <li>○友だちと教え合い仲間意識も育って、どうしたらうまくいか等話し合えるようになった。何より幼児が進んで運動へ向かうように変容し、動きも機敏になってきた。</li> <li>○どういう風に話せば相手に伝わるか、考えて話そうとするようになった。理解できる語彙数も増え、相手の話を聞こうとするようになった。</li> <li>△休みを経ると、獲得した言葉での対応が後退することが多かった。</li> <li>○異年齢の活動を組み入れることで互いに興味・関心が</li> </ul>

	<p>ともに話し合いを繰り返し、自分の思いや考えが言葉で表現できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・～ふれあい・つながり</li> <li>・ささえあい (丹幼研・平成21年度府公立幼稚園研究指定発表園岩滝幼稚園との共通テーマ)～園内外の様々な人と触れ合い、相手を尊重し、労り協同する中で、自らが社会的存在であることに気づき、参加する取り組みをする。</li> </ul>	<p>、言葉でのやり取りに慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦活動の度に話し合ったり、家庭での様子や友だち関係等、子どもたちの話を十分聞く時間をもつ。</li> <li>⑧1年の園生活を振り返り、楽しかったことや頑張ったことの経験を話し合い、発表会で保護者へ向け発表する。</li> <li>⑨なかよしデーを設定し、意図的にクラス・異年齢交流を図る。</li> <li>⑩様々な園行事を縦割りのグループで活動する。⑪園外の保育所の友だちや高齢者や社会人講師との交流や指導を受ける。(5歳児交流会・高齢者者大学、丹後園との交流・お茶、お琴の体験など)</li> </ul>	<p>わき、年長の活動に憧れ年少を労り可愛がるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の方々の協力で園内の限られた人間関係だけでなく、様々な人と触れ合って学び他人に対する優しい感情も芽生えた。</li> <li>△インフルエンザの流行で、交流会に参加できなかった。</li> </ul>
	<p>(3)基礎基本の力をしっかり身に付けることを重点目標におき、研究の深化を図るとともに教師の専門性の向上を目指した研修を充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の遊びの環境をどう整えるか、研究や工夫を行い、日々の研究に生かす。</li> <li>①重点目標をテーマに『エピソード研究』を行う。(毎学期)</li> <li>②公開保育を行い、担任間で保育の方法・子どもの姿・支援指導の方法を学び合う。(3学期)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や指導の方法、姿容等資料を持ち寄り話し合った。公開保育でより深められ、自らの保育の見直しにもできた。</li> <li>○客観的に自分の保育を振り返ることができ、重点研究の工夫もできるようになった。</li> </ul>
	<p>(4)家庭との効果的な連携に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の確立の重要性を啓発し定着への取り組みをする。・生活の姿を保護者に伝え、家庭とともに育てていく。</li> <li>・クラスだよりや個人懇談会を設定して保護者との話し合いの機会をもつ。</li> <li>・親同士が互いに連携し学び合えるように支援する。</li> <li>①ママのおしゃべり会</li> <li>②読み聞かせボランティアの募集</li> <li>③『親父の料理隊』により、父親の子育て参加の機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○便りによる啓発と個別の指導をする。子どもたちと自己点検等も行った。日々の生活の見通しがもてるようになった。</li> <li>○ママのおしゃべり会では紙芝居作り等、ママの協同活動へと進んでいくことができた。</li> <li>○父親同士の交流の場となり、好評だった。</li> </ul>
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園開放により就園前の親子での保育参加を行い、子育ての安定を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の広報やおたよりで宣伝活動を行う。・学校支援ボランティアの派遣を依頼する。園児と一緒に製作やリズム遊戯等で遊んだりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間10回開催した。親子ともに安心感をもてる一步となった。</li> <li>△予算も人手もないことは負担が大きい。</li> </ul>
<p>次学期に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスの保育の充実とともに「協同の活動」の取り組みを進める。</li> <li>・言葉の力の育成に向けて研究・指導を継続して推進していく。</li> </ul>		

# 平成21年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市丹後幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
生き生きと遊び心豊かでたくましい子の育成 1 ところ豊かで優しさがあふれるこども 2 意欲的に遊びを作り出し笑顔の輝くこども 3 人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えが言えるこども			<ul style="list-style-type: none"> <li>・一体化施設の活用、長所の探求</li> <li>・異年齢児の交流で、人と人とのつながり等、連携を通していたりや優しさ、思いやりの心を育む心豊かな経験をする。</li> </ul>
評価項目	重点項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	1 異年齢の交流の取組 ア思いやりの心を育成 ・年少児に対する優しさ、責任感を育てる。 ・つながりを深め育ちあう仲間作りを進める。 イ言葉の力の向上 ・日常の中で、自分の言葉として使えるようにする。	1 合同散歩、遊びの交流(週1・2回) 2 行事を通しての異年齢交流 ・異年齢チームの取組(運動会) ・「仲よしオリエンテーリング」(秋の遠足・お別れ会・発表会・クリスマス会) ・生活や自由遊び ・共同制作・「お遊びパラダイス」・集団遊び 3 野菜の栽培を通してのつながり 4 言葉の力の育成 ・絵本読み聞かせ会(職員以外の人) ・ママの読み聞かせ、ボランティア 5 挨拶の奨励 ・「にこにこあいさつ」キャッチフレーズ掲示 ・園児保護者へ声をかけ、通信で広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年少児は年長児に憧れまねて遊ぶなど、交流を重ねるごとに豊かな関わりがもてた。</li> <li>○子どもたちに責任感と思いやり、助け合いなどの姿が見られ、やさしさも育ってきた。</li> <li>○年少児が、年長児の野菜栽培を間近で興味深く見ることで、栽培の話で年長児と交流があった。また、収穫野菜を給食食材として使用する際に、年長児が『今日の給食には僕たちが作った〇〇が入っています』と園内各クラスを回るなどしたことで、言葉を介してのつながりもみられた。さらに、子どもたちの変化を認めた保護者から、支持・支援の声も聞かれた。</li> <li>○教職員・ボランティアの読み聞かせ、絵本貸し出し(個人、図書室団体貸し出し利用)を通してたくさんの絵本に親しめ、まだ集中して聞く力が育ってきた。</li> <li>△日常の挨拶については、“大きな声で”は一定の成果はあったが、自分からはできていない。また友達同士の広がりも弱い。</li> </ul>
	2 家庭との連携 ・保護者との信頼関係を築き、相互理解を図る。	1 活動内容 降園時話し合い、ママのおしゃべり会(月1回) 読み聞かせ会、畑作り(親子で野菜栽培活動)、子育て講演会・懇談会 2 基本的生活習慣の獲得 「早寝早起き朝ごはん」キャラバン隊受入 生活点検表	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者同士の親睦を目的としたスタートであったが、回を重ねていくうちに活動が活発になり、中学校の畑を借用した畑作りへと発展できた。地域の方の協力もあり、子育て交流、親子の育ちの場を提供できた。</li> <li>○楽しみながら良い生活習慣を身に付けるきっかけ作りとなった</li> <li>△幼児教育の理解を図るという点では、不十分さが残る。</li> </ul>

	<p>3 地域、学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校に親近感と期待感を持ち、つながりをスムーズにする。</li> <li>・人とのさまざまな体験を通して生活を豊かにする。</li> </ul>	<p>1 学校との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問受け入れ《間人小学校2年生、宇川中学校体験学習（手作り遊具）》</li> <li>・学校訪問体験（間人小学校、間人中学校）</li> <li>・職員間の連携（参観と懇談会）</li> <li>・間人中の畑借用（野菜栽培、給食食材使用）</li> <li>・行事参観案内発送</li> <li>・ボランティア受け入れ（網高間人分校生徒）</li> </ul> <p>2 地域との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲、野菜栽培と合鴨放鳥の取組</li> <li>・園外保育</li> <li>・コスモス畑訪問</li> <li>・いちがお園（デイサービス）との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園行事の参観（学校）を重ねることで学校との距離が近くなり、教員の存在を身近に感じたり、行事を楽しみながら進めたりするなど職員の意識に変化が見られた。さらに、保護者にも学校との連携の様子が伝わり、『就学に向けて安心できうれしい』との声が届いた。</li> <li>○学校の畑を借りたりして接する機会が増えたことで、中学生に声をかけてもらうなど、自然に関わりが増えてきた。</li> <li>○地域の方の協力でサツマ芋の苗さし、ジャガイモ掘り、合鴨放鳥などを体験することが出来た。また、地域の方に子ども達も元気に挨拶を交わすことが出来るようになり、『子どもたちの声が聞こえると元気が出る』など喜ばれ、地域の子どもとして守り育てられていることが実感できた。</li> <li>○いちがお園との交流では、2回目は自分から関わりを持つなど、主体性も出て成果を感じた。</li> <li>△大勢の地域の方にまでは広がっていない。</li> <li>△小学校との交流は、計画的に進めきれていない。</li> </ul>
	<p>4 職員の資質向上と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育や教育の専門家としての自己研鑽に努める。</li> <li>・幼保一体化施設としてスムーズな運営に努める。</li> </ul>	<p>1 研修会参加と報告会実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修会への積極的参加</li> <li>・幼稚園保育所研修の実施（毎月2回・定期的）</li> <li>・園内研修（カリキュラム検討会、月反省会、行事検討会、特別支援）</li> </ul> <p>2 幼保一体化施設のスムーズな運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアル検討（月に一回）</li> <li>・常に報連相を心がけ、朝礼、終礼で確認</li> <li>・保護者説明のしおり作り</li> <li>・職員アンケート実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○複雑な勤務体制と職員人数が多いことから、朝礼、終礼で再確認を心がけたことにより、職員の手際よい連携が良かったなどの評価を保護者から受けた。</li> <li>○外部研修会への機会が増え、職員の資質向上へつながった。</li> <li>△開園一年目ということもあり、細かいところまでの確認に時間がかかる。職員の連携が課題である。</li> <li>△幼稚園教育を進めるに当たり、研修、話し合いが出来にくかった。</li> </ul>
<p>子育て支援</p>	<p>1 保護者同士のコミュニケーションの場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児の支援を行う。</li> </ul>	<p>1 ママのおしゃべり会</p> <p>2 未就園児の積極的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園開放を行い未就園児との交流</li> <li>・支援センターに来ている子どもと園児の交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ママのおしゃべり会は5月後半より実施した。子育ての悩みを話したり、自主活動のきっかけ作りとなった。</li> <li>○行事や、日常保育の中で交流を図り、幼児教育の大切さを発信できた。</li> </ul>
<p>次学期に向けた改善の方向性</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小学校（中学校）との連携を進める。</li> <li>2 異年齢交流を進める。（異年齢児への親しみやいたわり共感の育成）</li> <li>3 言葉の力、表現力を育てる。（進んで挨拶、自分の言葉で話す、考えて行動するなど、自分の思いや考えを表現し行動できる力）</li> <li>4 地域への情報発信の機会を一層拡大していく。（町域へ園だより回覧）</li> <li>5 幼保一体化施設の中の幼稚園教育の進め方を検討する。</li> </ol>		